

## 「21世紀の横浜を守る」都市型消防団へのあゆみ

横浜市西消防団 団長 原口幸多夫



### 1 横浜市西区の紹介

私たちの管轄する西区は横浜市の臨海地域にあり、約7平方kmと18区の中でも最も面積が小さく、総人口も10万人弱と数字では最も少ない区ですが、JRをはじめ鉄道会社6社の乗り入れる横浜駅やみなとみらい地区などの商業地と住宅密集地の両方を抱え、昼夜間を問わず横浜市でもトップクラスの人口密度です。

一日平均約200万人が利用する横浜駅の周辺はもともと海。江戸時代から明治時代にかけて埋立てられたため土地が低く、繁華街とオフィス街の合間を縫って川が何本も走っており、区の東側、横浜港に面したみなとみらい地区もほぼ埋立地で、パシフィコ横浜やランドマークタワー等の商業施設がひしめき合っていますが、そのすぐそばには古くからの繁華街や昔ながらの下町風情を残した住宅密集地が広がり、区内での高低差も非常に大きく、西に進むにつけ急傾斜地域や坂道、階段が多くなっていきます。

### 2 西消防団の概要

西消防団は戦後の消防組織法施行により横浜市に消防団の成立した昭和23年当初から活動を始め、2012年5月時点での団員は176名。活動の合理化を目指し分団の再編成を何度か行った結果、6分団から3分団へと形態を変更し、明確に事務分掌された本部のもとで運営されています。

また、女性団員の採用にも平成9年10月の任命開始以降積極的に力を注いでおり、現在では団員の1/4以上である48名が女性。本部や各分団も完全な男女混成での活動形態をとっています。

### 3 西消防団の活動

#### (1) 地域に則した特殊隊の創設

繁華街や住宅地など深夜にも人が多く、低地と河川・海を持つ西区では、過去に何度か冠水や浸水被害が発生しているため、団員のアイデアからウェットスーツなどを備えた水害対応隊と広範囲照明バルーンを積載した照明隊が2009年に誕生。市内に2団しかない総務省貸与の救助資機材を備えた車両隊とあわせ、日々資機材の取扱訓練をして必要に応じ出場します。

#### (2) 実災害を想定した訓練の充実

訓練の中心は団員の意見を積極的に採用した実災害想定のものとなっており、実際の河川を使用した水難救助訓練や倒壊家屋からの救出訓練、公設消防隊との連携を念頭においた風水害対策情報受伝達訓練や高度救助隊から指導を受けての事故車両からの救助訓練などを実施。大震災などを想定した横浜駅での関係機関連携による避難訓練にも参加、消防艇から水利を得ての横浜港での市内複数団合同による大量送水訓練なども行います。



#### (3) 女性消防団員の活性化

サラリーマン団員の増える昨今、女性団員に期待される役割は防災指導や広報に留まりません。男性団員が不在であっても災害現場での活動などが行えるよう男女混成での分団編成を行い、女性も各訓練に積極的な参加をしています。

平成24年4月には男女混合の分団編成において市内初となる女性分団長が誕生。女性部長や副分団長も存在し、女性の訓練担当者が男性団員を厳しく指導する風景なども見られます。緊急走行訓練を受け機関員となった女性団員も複数名おり、日中に女性団員だけで出場し現場活動をした班もあるほどです。

同時に、女性に特有の細やかさなどを活かした被服管理なども行っています。



#### 4 おわりに

東日本大震災以降、地域の安全・安心の担い手としての消防団に期待が高まっていますが、都市部においては消防団の認知度が極めて低く、イベント参加や募集活動を活発にすることで団員募集を進めていくことも必要となっています。

「自分達のまちは自分達で守る」を合言葉に、これからも横浜の安全を守ることに誇りを持ち、より一層の精進をしていく所存です。

